
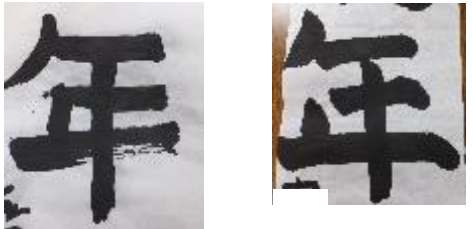
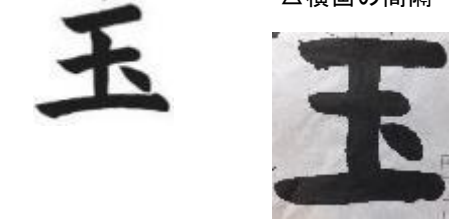


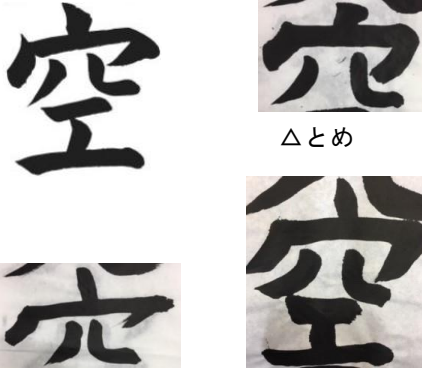
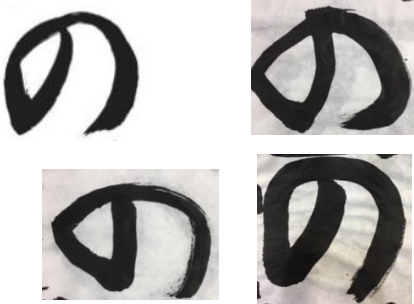


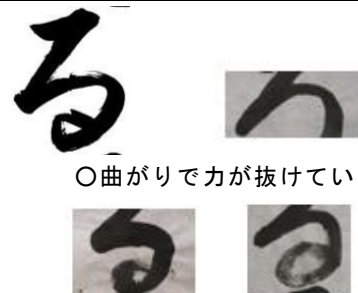






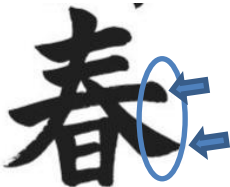







審査を終えて（小学校の部）

令和2年1月25日 本部書写委員会

学年	詢	審査員からのコメント	
小学校 三年 年 お 年 玉 お 年 玉	お	<p>① 二画目の「はらい」の方向と筆使い △3画目の「点」につなげようと意識するのはよいのですが、そうするあまりに、はらいが回り込みすぎたり、バサバサだったりしたのがありました。 ・筆の穂先がまとまるように練習するとよいでしょう。</p>	<p>お</p> <p>△はらいの筆使い</p> 
	年	<p>② 横画の方向と終筆の筆使い △終筆の「とめ」の筆使いが不十分なものや、コブのように下がってしまうものがありました。 ・「トン」、「スー」、「ピタ」「クイツ」というリズムで筆使いを練習させるとよいでしょう。</p>	<p>年</p> <p>△終筆の筆使い</p> 
	玉	<p>③ 横画の間隔 ○横画の間隔の取り方は、よくできていました。 △5画目の点を意識したのか、3、4画目の間隔を広く取ってしまったものも見受けられました。</p>	<p>玉</p> <p>△横画の間隔</p> 
	玉	<p>④ 横画・縦画の始筆の筆使い ○横画の始筆の筆使いはできていました。 △縦画の始筆を意識させるとよいです。 ・穂先を揃えてしっかりつくという基本を意識しましょう。</p>	<p>玉</p> <p>△筆使い</p> 

学年	詢	審査員からのコメント	
小学 校 四 年 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl;"> 天 空 の 星 </div>	天 空 の 星	<p>① 横画の始筆・終筆の筆使いと四画目の「はらい」</p> <p>○横画の始筆、終筆は概ねできていました △四画目の「はらい」は、止まっていないもの、途中ではらいが切れているものがありました。</p> <p>・「はらい」の足が短くならないよう、横画を右肩上がりにし、書く位置を広くとれるようにするとよいでしょう。</p>	 <p style="text-align: center;">△はらい</p>
	空	<p>② 二・三画目の筆使いと上下の組み立て</p> <p>○上下の組み立ては概ねできていました。さらに穴冠の一画目と「エ」の二画目の位置に注意し、中心がずれないように意識するとよいでしょう。</p> <p>△二画目を止めていない作品がありました △三画目をはらわず、おれているもの、しっかりと止まらずにはらっているものがありました。</p> <p>また、観点ではありませんが、五画目がはねたり、はらったりしている作品もありました。</p>	 <p style="text-align: center;">△三画目の筆使い △組み立て</p>
	の	<p>③ 「はらい」の方向と筆使い</p> <p>○全体的によくできていました。曲がりの頂点から開く方向を意識して書くと更によりよいでしょう。</p> <p>△はらいの部分がかすれている作品が多くありました。適量の墨液を付け、最後まで丁寧にはらうことを心掛けるとよいでしょう。</p>	 <p style="text-align: center;">△はらいの筆使い</p>
	星	<p>④ 横画の間隔と文字の中心</p> <p>○横画の間隔は、よくできていました。 △七画目の始筆が悪く、中心がずれてしまう作品がありました。</p> <p>△「日」や「生」が広がったり、大きくなりすぎたりし、バランスの悪い作品がありました。画数が多くなりますが、一画一画、丁寧な始筆、終筆を心掛けて書くとよいでしょう。</p>	 <p style="text-align: center;">△間隔・中心 △始筆</p>

学年	詢	審査員からのコメント	
小学校 五年	光 る 雪 原	<p>① 五～六画のつながりと六画目の筆使い</p> <p>○「光」の中では、6画目がとても大切な画です。スムーズに曲がっていないものや、「はね」が外に向いているものが少なく、よく練習してありました。</p> <p>・5・6画目の起筆は、4画目に接する程度にするとよいでしょう。</p> <p>・とめ、はね、はらい、横画、縦画等の基本点画をしっかり練習するとよいでしょう。</p> <p>○全体によく練習してありました。</p>	 <p>△はねが外に向かっている。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">光る雪原</div>	る	<p>② 「おれ」と「曲がり」の筆使い</p> <p>○2か所の「おれ」が、よくできている作品がたくさんありました。</p> <p>○「曲がり」は、扁平で滑らかに曲がっているものが多くありました。</p> <p>△曲がるところで筆を抑えつけたまま曲がると、曲がりの後半で筆が動かなくなってしまう。力を抜くとよいでしょう。</p>	 <p>○曲がりで力が抜けている。</p> <p>△うまく曲がれていない。</p>
	雪	<p>③ 「雪」の形と「雪」と「ヨ」の組み立て</p> <p>△2画目を払っているもの、3画目をとめたり止めてからはねたりしているものは筆使いが違います。正しい筆使いで書きましょう。</p> <p>△「ヨ」が左にずれているものがありました。上下の組み立てを意識しましょう。</p>	 <p>△筆使いが正しくない。</p>
	原	<p>④ 一・二画の接し方と「厂」と「京」の組み立て</p> <p>○1画目と2画目の接し方は、よくできていました。</p> <p>・最終画の位置と大きさを「小」のバランスをとります。右に張るような形でしっかりと止めるとよいでしょう。</p>	 <p>△最終画をはらっている。</p>

年 詢	審 査 員 か ら の コ メ ン ト	
小学 校 六 年 の 海	新 春 の 海	<p>① 「へん」と「つくり」の組み立て</p> <p>* へんとつくりは、点画をかみ合わせてバランスをとります。</p> <p>△へんの右側がそろっていないために、左へ傾いているものがありました。</p> <p>△つくりの最後の画が長すぎる作品が見られました。</p> <p>・それぞれの画の長さにも気をつけるとよいでしょう。</p>   <p>・へんの右側をそろえます。</p> <p>・つくりの最後の画の長さに気をつけましょう。</p>
新 春 の 海	春	<p>② 横画と「はらい」の方向と筆使い</p> <p>* 4画目から5画目のはらいは、つながりを意識して、穂先から筆圧をかけて太くし、(穂先の向きを上)にしっかりと止めてから右方向に払います。</p> <p>△横画の終筆が雑なものや押さえすぎ不自然な出っ張りがある作品が目立ちました。</p> <p>・横画の始筆・送筆・終筆の筆使いを練習しましょう。</p> <p>△右払いの筆づかひの練習を望みます。</p> <p>しっかりと止まっていないものが目立ちました。</p> <p>・右はらいは、左手の動きも大切です。筆の近くで紙をしっかりと押さえ、丁寧にはらうとよいでしょう。</p>   <p>・不自然な出っ張りのない終筆にしましょう。</p> <p>・春の最終画は止めてからゆっくり穂先をそろえながら払います。</p>
	の	<p>③ 「曲がり」の筆使いと「はらい」</p> <p>* 中央から左下に筆を下ろし、しっかり止めてから上にもち上げ、なめらかに弧をえがきながら筆圧をかけていきます。最後は丁寧に穂先をそろえるようにはらいます。</p> <p>○字形の整ったものが増えました。</p> <p>△最後のはらいのかすれ、細すぎるものがあります。ゆっくりと筆圧を掛けながら丁寧にはらうようにするとよいでしょう。</p>   <p>・最後は、筆圧をかけてゆっくり丁寧に払います。</p> 
	海	<p>④ 穂先の動きと点画のつながり</p> <p>* さんずいの点は、トンと筆を置くだけでなく、穂先から入り筆圧を強くしたり弱めたりするなど穂先の動きと次の画へのつながりが必要です。</p> <p>△さんずいの2画目が横画になっている作品や連綿線をわざと書き足した作品が目立ちました。</p>  <p>・筆を次の画への連続を意識しながら、なめらかに動かしましょう。</p>  

① 全体のまとめ・筆勢について

○手本をよく見て、丁寧に書いてある作品が増え、よくまとまっていました。

△用紙のどの辺に文字を書いていくか、字配りを意識しないと「玉」が小さくなったり、つぶれてしまったりします。用紙を折ったり、透けて見える下敷きの線を目安にしたりしながら書き始めの位置や大きさの見当を付けるとよいでしょう。「お」の書き出しと縦画は、左側に寄るように、漢字の中心は、用紙の中心で揃うとよいです。 (3年)

△「新春」が大きく「の海」が小さくなった作品もありました。作品全体の字の大きさのバランスを意識して書きましょう。紙を折って文字の中心、大きさを確認してから書くと大まかな字の大きさが分かります。 (6年)

△筆の手入れが悪いのか線が固く、マジックで書いたような線、はらいがバサバサになっている線の作品がありました。筆文字特有の柔らかい線が書けるように日頃から筆の手入れも大切です。

△墨をつけすぎて、線がポタポタになったり、足りなくてカラカラになったりしたものもありました。墨の量を考えて、運筆するように練習しましょう。

△全体的にかすれた作品も目立ちました。墨量と墨をつけるタイミングも指導するとよいでしょう。

△小筆で書いた名前が、ネームペンで書いたように堅い線のものが多くありました。小筆も筆の弾力をつかい、柔らかい線で書けるようになってほしいです。また、名前も作品の一部です。書く位置や大きさも考えて練習するとよいでしょう。

<全体を通して>

- ・3年生は、毛筆の入門期であり、丁寧に指導されている様子が、作品からうかがえました。のびのびとした力作が多かったです。 (3年)
- ・「新」に誤字が見られました。出品する前によく確認するようにしてください。 (6年)
- ・筆に墨を含ませ、穂先を整えてから、一点、一画丁寧に書くという構えで、基本となる始筆、終筆等、基本点画の筆使いを練習するとよいでしょう。また、画の接し方にも留意してほしいと思います。
- ・範書はちょっと苦手という先生方は、YOUTUBEの動画を御覧になり、ICT機器で児童に示すなど、御活用ください。※「上国連」「書き初め」で検索
- ・筆を根元までおろし、毛の弾力を使って書くと、毛筆の特性を生かした豊かな線で書くことができます。筆のおろし方が足りなかったり、固まっていたりして、固い線になっている作品がありました。日頃から筆の手入れに気を配ってほしいと思います。
- ・校名印を押す場所が、作品の点画に重なったり、文字の中の余白に入り込んだりしているものがありました。校名印は作品にかからないように小さいものに換えたりして、作品の妨げにならない位置に押しってください。
- ・敷き写しや骨字、籠字など、作品として不正なものが毎年出品されています。敷き写しは練習の段階でやるのはよいと思いますが、作品として出品されても、自力での作品ではないために審査できません。冬休みの宿題で、家で書く時に敷き写した作品を児童が提出し、学級担任の先生がよく確認しないで出品してしまったという事例が多くありました。中には、手本を拡大コピーして敷き写していると思われる作品もあります。審査側としても非常に心苦しいのですが、これらの作品については無印の対応としています。出品前に、手本に作品を重ねてみたり、手本を横に置いて確認したりし、作品として正しいものを出品するよう、御協力をお願いいたします。